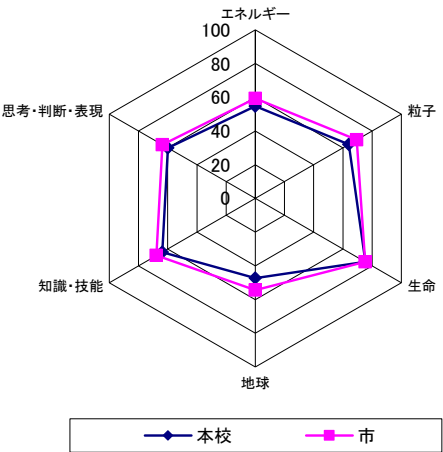


宇都宮市立雀宮中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	54.7	59.3	62.1
	粒子	64.0	69.5	66.8
	生命	75.4	75.2	70.9
	地球	47.3	54.4	52.0
観点別	知識・技能	63.7	67.7	67.2
	思考・判断・表現	59.8	63.7	60.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	・平均正答率は市の平均より4.6ポイント下回った。 ●磁力線について短答する問いでは、平均正答率30.7%、無回答率が18.1%であった。 ○紙テープの打点の間隔の変化から、速さの変化を考える問いでは、平均正答率が86.7%と高かった。 ●テープの長さから、そのテープが記録されたときの台車の平均の速さを求める問いでは、平均正答率が44.0%とやや低かった。	・生徒が台車の運動を記録テープで分析する実験では、テープから平均の速さを求めたり、考察、比較、発表などをしたりする活動を意欲的に取り組めるよう、学習目標や課題の設定を工夫する。 ・計算のドリル問題を課題にし、苦手意識の軽減を図る。 ・学習した内容を復習する小テストの回数を増やすことで、主体的に学習を振り返り、調整しやすくなるよう、課題の出し方を改善する。
粒子	・平均正答率は市の平均より5.5ポイント下回った。 ●電離について理解しているか短答する問いでは、平均正答率が47.0%、無回答率が14.5%であった。 ○1種類の物質が2種類以上の物質に分かれる化学変化を「分解」ということを理解しているかの問いでは平均正答率が90.4%であった。	・学習した内容を復習する小テストの回数を増やすことで、主体的に学習を振り返り、調整しやすくなるよう、課題の出し方を改善する。 ・化学式、化学反応式、電離の式などのつくり方について、生徒が自分で考えて理解できるよう、モデル図や元素記号等の掲示物を使うなど、分かりやすい授業の工夫、改善を図る。
生命	・平均正答率は市の平均より0.2ポイント上回った。 ○4つの領域の中で最も平均正答率が高く、すべての問いで70%を上回った。 ○生物の成長をふえ方についての問いでは、平均正答率が77.7%と、市の平均正答率を上回った。 ●肺炎になると息苦しくなる理由を分析し、記述する問いでは、無回答率が14.5%とやや高かった。	・授業において、観察や実習、ICTの活用など、多様な方法で生物についての興味、関心を高める工夫を行う。 ・学習した内容が、生活や社会の中でどのように活用されているのか調べたり、話し合ったりする活動を行う。
地球	・市の平均正答率より7.1ポイント下回った。 ●4つの領域の中で最も平均正答率が低かった。 ●ポンプで水をくみ上げられる理由を述べる問いでは、平均正答率が15.1%とかなり低かった。また、無回答率も30.1%と高かった。 ○大気圧が関係している現象を選択する問いでは、平均正答率が90.4%と高かった。	・授業において、観察、実習、ICTの活用など、多様な方法で地学、気象についての興味、関心を高める工夫を行う。 ・レポート作成や話し合い活動で、自分の考えを周りの人に分かりやすく伝える意識を高めるための授業改善を図る。